

すべての生き物にとって大切な水

西野 日瑤里

小郡市立三国小学校

わたしは、宝満川浄化センターを見学して、使われた水が川へ流されるまでの行方を知り、自分のくらしを見直していきたいと思いました。

見学で一番おどろいたことは、水を十三時間もかけて、きれいに浄化することです。下水管から流れてきた家庭や会社などから出た汚水は、公共汚水ますという施設に流れます。下水管を通して、大きな砂や泥などは、ちん砂地という水そうで大きなゴミを取りのぞきます。その後、「活性汚泥」というび生物に、水の中の汚れを食べさせます。び生物とは、けんびきょうを使わないと観察できないほどの小さな生き物たちのことです。汚れを食べた活性汚泥をしずめると、水がきれいになります。最後に、塩素という物質で消毒をして、水質検査をしてから川に流します。これだけの時間と手間をかけなければ、安全な水を川に流すことはできません。

また、活性汚泥は、油に弱いということも知りました。料理などで使い終わった油などをはい水口に流してしまうと、海や川を汚してしまふことになります。油を大きじ一ぱいをはい水口に流すとき、それを魚が住める水質にするには、おふろの水二十杯分の水が必要になるそうです。よごれた水を川や海にそのまま流すと、水辺の植物がかれ、鳥やこん虫なども生きていけなくなります。よごれた水にふくまれる「有がい物質」を魚や貝が取り入れると、そのまま体の中にこ

り、その魚や貝を人間が食べることによって、病気を引き起こすこともあります。下水道しよ理の仕事は、すべての生き物にとって大切な水を守ることにつながっているとわかりました。

水をよごさないために、わたしたちにできることは、食べのこしやのみのこしをなくしたり、洗ざいやシャンプーなどを使いすぎないようにすることです。そして、海や川の生き物を守るためにも、料理で使った油などは、必ず、かためるか、紙にすわせて捨てるようにしていきます。

これから、大人になっても、この見学で学んだことを忘れないようにしていこうと思います。そして、すべての生き物にとって大切な水を守っていききたいと思います。